

親子田んぼ教室 「田植え」

佐野由輝（大網白里市）

日 時：2017年4月29日（土）9:00～12:00 天気：晴れ

参加者：11家族、32名（大人17名 子ども15名）

指導員：岡田富子、佐野由輝、花島伸美、山下美佐子、山田益弘

ビオトープの会協力者：飯高憲治、小林敏夫、西川 章

2012年から始まった親子田んぼ教室も今年で6年目を迎え、昭和の森における春の恒例行事として定着しました。

今年は、32名の親子を3つのグループに分け、それぞれ1区画の田んぼに稲を植えました。まずは、日頃、畠田の管理をしているビオトープの会の方に、稲の植え方を指導してもらいました。子どもたちのほとんどが田植えをするのが初めてであり、最初は、田んぼのぬかるみに足をとられ、思うように動けず、尻もちをついてしまう子もいて、1束の苗を植えるのも苦労していました。しかし、子どもたちの順応性は高く、少しづつ慣れてきて、後半にはてきぱきと効率よくきれいに植えられるようになりました。そして、全身泥だらけになりながら、無事、3区画の田植えを完了しました。子どもたちからは、「ムニムニして、カエルみたいな踏み心地だった」、「食べ物を育てるのはとても大変だとわかった」等の感想があり、良い経験になったと思います。

田植えが終わった後は、網を手にして田んぼの生きもの探しをしました。カエルやオタマジャクシ、ザリガニ、ヤゴ等たくさんの水生動物を見つけ、子どもたちは大興奮していました。特に、ドジョウを見つけたときは、なかなか思うように捕まえることができずに悪戦苦闘していましたが、何とか網の中に収めることができたときは、とても得意そうな顔をしていました。子どもたちが捕まえた生物たちを水槽やパレットに分類し、田んぼという環境が生物多様性の保護に果たしている役割を、食物ピラミッドの図を見せながら分かりやすく伝えました。

そして、稲の1年を示した紙芝居を披露し、今日、子どもたちが植えた稲の苗がどのように成長し、稲穂を付け、お米になるかをお話しして、田んぼ教室を終えました。子どもたちが植えた苗がすくすくと成長し、秋には、たくさんの中穂を実らせることができます。6月の草取り、9月の稲刈りが楽しみです。

